

本日は、長鶴学長を始め、諸先生方にご臨席賜り、私たちのために心のこもった式典を挙行していただき、別科助産専攻修了生一同心より御礼申し上げます。

一年前、助産師に対する憧れと志を抱きながら、宮崎県立看護大学別科助産専攻の第7期生として入学致しました。一年間互いに支え合いながら誰1人かけることなくこの場に参列できたことを大変うれしく思います。初めての講義において、学生全員で助産師像について話し合った時、皆の助産師への強い志を感じ、このメンバーと共に同じ目標に向かって1年間学ぶことができるということをうれしく思いました。講義や演習では、初めて聞く専門用語が多く、必要とされる知識や技術の多さ、難しさに不安を抱えながらも、新しい知識や技術を学ぶことの喜びを実感しました。

分娩介助実習では、初めて分娩についてときの緊張感、新生児を取り上げたときの感動、温かさ、産婦さんからの「ありがとうございました」という言葉と笑顔は今でも鮮明に覚えています。生命の誕生の瞬間に感動すると共に、母児の命を守る責任の重さを痛感しました。最初の頃は、なかなか自分で分娩経過を判断することができず、先生方や指導者さんに助言をいただきながらの日々で、学んだことをなかなか実践できない自分に不甲斐なさを感じることがありました。しかし、先生方の温かいご指導を受け、学生同士で支え、励まし合いながら実習を乗り越えることができました。最後の分娩介助となった継続事例の方の分娩介助は、妊娠期から積み重ねてきた関係性のもと、主体的に助産ケアを行うことができ、新生児を取り上げ、産声を聞いた瞬間、目に涙が浮かびました。未熟な私たちを快く受け入れてくださった妊産褥婦さんとその御家族、そして丁寧にご指導してくださった実習指導者の皆様に深く感謝申し上げます。

これから私たちは助産師としてそれぞれ新しい道へと進みます。この別科助産専攻での生活は1年間と長くはありませんでしたが、様々な考えをもつ仲間と出会い、共に学ぶことができ、これまでで1番濃密な時間となりました。この先、楽しいことやうれしいことだけでなく、様々な困難が待ち受けていると思います。助産師という職業が辛くなる時があるかもしれません。しかし、その時は学生時代の仲間を思い出し、互いに支え合いながら、それぞれの目標に向かって精進してまいります。

本日この晴れの日を迎えることができましたのは、教職員の皆様のおかげだと存じます。別科助産専攻修了生一同、改めて御礼申し上げます。そして、助産師になりたいという私を支えてくれた家族の存在は私の心のよりどころでした。言葉では言い尽くせないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが、宮崎県立看護大学の益々のご発展とご指導くださいました先生方の御健康と御活躍ならびに在校生の皆様の一層の御健闘を心からお祈りいたしまして、答辞とさせていただきます。

令和6年3月18日  
別科助産専攻修了生代表